港区立高松中学校　　学校だより〈第２号〉
令和５年５月１２日　　校長　中山　幸子

たかまつの森

創立１９４９年（昭和２４年）　〈高松中生のあたりまえ〉推進校　港区高輪１−１６−２５

『それは無料だが、値段がつけられないほどの価値がある。
自分のものにはできないが、使うことはできる。
そして、いったん失ってしまえば、二度と取り戻すことはできない』

（令和5年5月10日東京新聞より一部抜粋）

みなさん、上記は何を表しているかご存じでしょうか。私は読んだ瞬間に「信用」かなぁと頭をよぎりました。これは米国の有名なビジネスマンの言葉だそうです。＜それ＞とは『時間』をさしています。

確かに・・・・、信用は場合によっては取り戻せる人もいるかと思い直したり、いやいや、信用だって取り戻せないこともあるから該当するのではと読み返したりと、考えを巡らせた時間でもありました。

これまで何度となく、“やっぱりあの時ああしていたら”または“あれをやらなければ”の[たら、れば]の後悔の渦に飲み込まれてきたことか。まさに後悔先に立たずです。

時間は誰にでも平等に与えられたもので、その使い方によってその後が大きく変わります。ほかにも以下のような言葉があります。

『時間だけが神様が平等に与えて下さった。これをいかに有効に使うかはその人の才能であって、うまく利用した人がこの世の成功者なんだ。』（本田宗一郎）『時間の浪費ほど大きな害はない』（ミケランジェロ）『未来とは今である。』（マーガレット・ミード）

どれも心に刺さる言葉です。

また、少し違う角度からのとらえ方もできます。

『時間の使い方は、そのままいのちの使い方になる』（渡辺　和子）です。私たちはおぎゃあと生まれてきて、いつか来る終わりの日に向かいながら生きています。これを見て、私は以前、SNS で見かけたあるお寺の掲示板を思い出しました。

『人が自分のために使ってくれた時間は、その人の命であることを忘れてはいけない。』

これをスマートフォンで見たときは、自戒の言葉として受け止めたのを覚えています。自分を助けてくれたり、苦楽をともにしてくれたりというプラスに働いてくれる人達よりも、注意や違う意見、提案をしてくれる場面が思い浮かびました。本来なら、避けたいこれらをあえてしてくれるその気持ちだけではなく、その時間がその人のいのちでもあるとまで、わかっていたか・・・・。時折、思い返すようにしています。

みなさんはどうお考えになりますか。

さて、本日、５月１２日（金）は本校の１学期の中間考査です。まさに今、生徒たちは問題用紙と格闘している「時間」　です。今週のテスト対策直前期間を有効に活用できたかの成果が出ます。もちろん、出題されなかった内容もありますが、今後の力になります。

中間考査終了後のこの週末も、有意義に過ごす「時間」になってくれることを願っています。